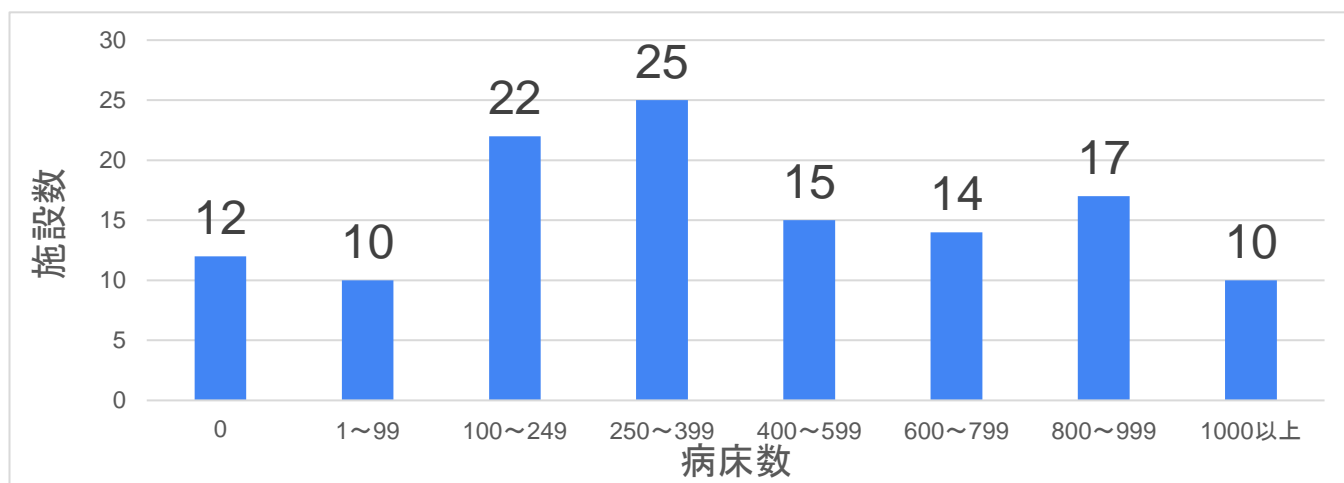


○アンケート参加施設（125 施設）



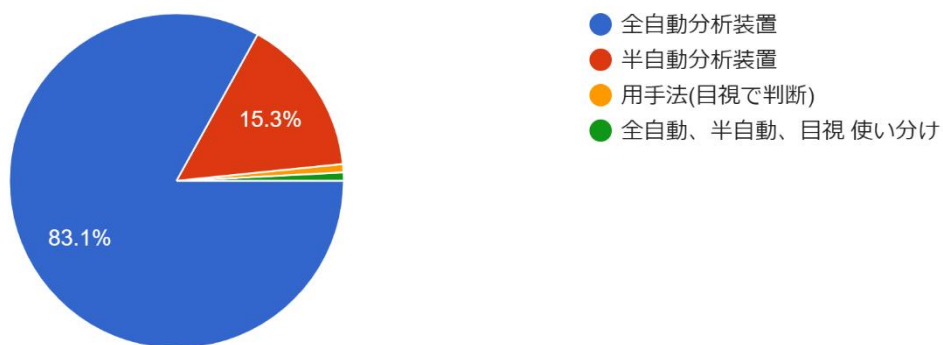
一般検査の担当者数を選択してください。

123 件の回答



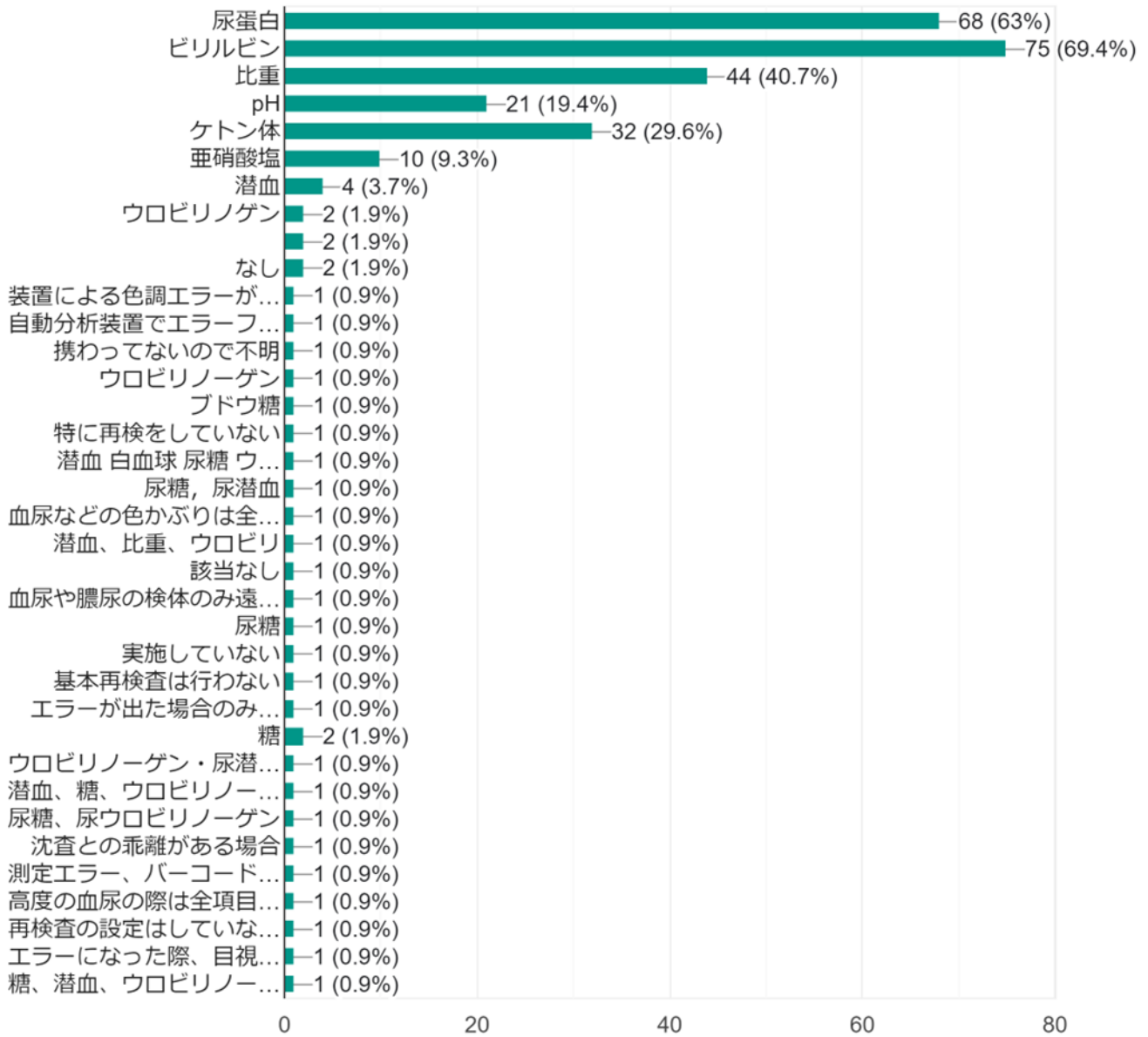
質問1.自施設の尿定性検査機器について主な分析方法をお答えください。

124 件の回答



質問2.再検査を実施している項目をお選びください。

108件の回答



質問3. 質問2で尿蛋白を選択された方は、再検査の条件ならびに再検査方法をご記入ください。

条件：アルカリ性で結果がプラスマイナス以上 方法：スルホサリチル酸法

前回値との乖離等、方法は試験紙、定量等

pHが8.5以上の蛋白陽性時に酢酸を添加し再測定

pH8.0以上の時、スルホサリチル酸法で確認

pHが高い検体の場合、尿生化学のμTPで確認する

2+以上 試験紙法目視

pH8.0以上 スルホサルチル酸

(1+)以上でタンパク定量検査を追加で実施

酢酸を数滴添加し pH を下げ再測定

スルホサリチル酸法 pH 7.0 以上 蛋白 (1+)

試験紙法で目視判定実施

ズルホサリチル酸の使用

①高値検体 (1000mg/dL) を蛋白試験紙で目視再検 ②pH9.0 以上の検体の偽陽性反応を蛋白試験紙を用いて目視再検

pH が 8.0 以上で尿蛋白が 1+以上の際に、酢酸を入れて目視判定

前回値とワンランク差で半自動機器で再測定

アルカリ尿の蛋白誤差補正を尿生化学の定量検査結果でメーカーランク表と比較

pH 8.0 以上の場合、酢酸で酸性化後に試験紙で再検

pH8.0 以上で (+/-) 以上、スルホサリチル酸法

pH8.5 以上で蛋白陽性の際に、酢酸を滴下して試験紙で目視判定

PHの結果が 8.0 以上、スルホサリチル酸法で確認

前回値と比べ 2 管差以上、PH8 以上で尿蛋白 (±) 以上の時、再検方法：スルホサリチル酸法

pH を酸性化してから再検

再検条件は有りません

①(+) 以上 n 検体→別メーカーの試験紙による目視判定(用手法) ②小児(0~10 才)の(±)以上の検体→ピロガロールレッド法による定量測定

pH8.0 以上で蛋白陽性の際に目視確認

尿蛋白 (+/-) 以上かつ pH8 以上の場合

pH 9 以上かつ TP 1+以上、TP 定性と定量の項目間チェック

同じ尿定性検査

pH8.0 以上の際に検体に酢酸を添加、酸性側にしてから試験紙を浸して目視判定

1+ 再度ペーパーで変わらなければタンパク量測定

3+以上、再測定

尿タンパクについて pH8.0 以上で偽陽性になることがあると言われていることから、自施設で検討を行い、ほとんど偽陽性は起こらないことを確認しました。PH8.5 以上では可能性は 0 ではないので、PH8.5 以上の検体は自動監査せず、前回値や診療料を考慮し必要に応じ再検査するようにしています。再検査はは定量法にしていますが、年に 1~2 件程度です。利用者(医師など)も偽陽性の可能性については認識していると思っておりますが、(実際に蛋白定量の追加依頼があるため)今後、定性結果の確認検査(定量)は医師の判断で行ってもらえるように定性検査の特性と限界について理解してもらえる機会を作りたいと思っています。

アルカリ尿で尿蛋白陽性になった場合は、酢酸を加えて尿 pH を下げ、再測定を実施している。

用手法目視による再検及び pH 高値時の酸性化再検(機械再検)

前回値とのデータ乖離時に分析装置で再検査

pH8.0 以上で蛋白 (±) 以上で、酢酸酸性後に目視法にて確認。比重 1.050 以上で蛋白 (±) 以上でスルホサリチル酸法にて確認。

スルホで再検：30 以上の時で混濁尿、色の濃い尿。 pH8.0 以上

尿蛋白が (+) 以上かつ pH が 8.0 以上の場合に 5%酢酸にて酸性化し再検査を実施しています。

別の試験紙で目視再検

PH8.5 以上かつ尿蛋白定性 (+/-) 以上の場合、尿蛋白定量を実施

明確な取り決め無し。用手法で実施。

前回値比較あるいは1+以上

アルカリ尿による擬陽性 スルホサリチル酸法

産科で陽性の場合、目視再検および定量検査追加

前回値と異なる場合。検体をよく混和して再検。

再検条件:PH8 以上, 再検方法:検体尿に酢酸滴下混和し再検前と同法で測定しPH6~7に補正されるまで繰り返す

1+以上 同一検体を再測定

酢酸滴下後に試験紙目視再検

前回値との大きな乖離時 再度検査

定性蛋白 2+以上にて再検

前回値との乖離 再検は再度機械

再検査なし、吸引エコーなどで結果が出ない時だけ、用手法で再検査

30mg/dL 以上、再測定

PH8.5 以上⇒中性にして再検

生化学と定性で解離がある場合

現在は血尿の際に全項目を再検査することになっています。尿沈渣と同じ条件で遠心し、上清で再検査(色調、潜血、白血球以外の項目)しています。

1+ 以上かつ pH9.0 以上でスルホサリチル酸法で再検

初回もしくは前回陰性で今回 1+以上

(1+) 以上で試験紙にて再検査

定性値 ± :スルホサリチル酸法

前回値との乖離、同じ方法

尿定性(1+)で沈査で確認

初回陽性時、前回値による再測定

pH8.0 以上で蛋白陽性(±以上)の場合、5%希酢酸を1滴入れ混和後、再度尿蛋白を検査する。

1+以上かつpH9.0 以上でスルホサリチル酸法で再検

pH8.0 以上で陽性の場合、スルホサリチル酸法にて再検査

再検条件はなく、ほぼ再検なし。再検するとしても目視再測定

3+以上 同じ機会に再検査

前回値から変化している場合並びに陽性時